

【湘南国際村めぐりの森 植樹&育樹祭】 体験レポート 3

11月12日(日)【第25回 湘南国際村めぐりの森 植樹&育樹祭】に参加をしました。

サンケイアイは運営グループとしても参加をさせて頂き、今回も植樹祭の取材記録の撮影を担当いたしました。もちろん、植樹チームとしても参加です！
撮影チームと共に、秋の植樹祭を体験してきました。

11月に入ってから異例の温かさが続いていましたが、当日の天候は朝から雨模様。その日に限り急激に冷え込み、体感的には師走並みの寒さだったそうです。あいにくの天候でしたが、参加者は全体で約170名も集まり、みんなで植樹活動をしました。

今回の植樹祭では、植樹の《苗木を植えるチーム》と、育樹の《苗木の生長を手助けするチーム》にわかれ、各作業を同時に進行をしていきます。

育樹の体験をしたことがなかったので、ぜひ体験したい！とお願いをしました。

サンケイアイの植樹チームにも、今回初めて植樹祭に参加をする人がいたので未経験の人は植樹体験へ。

過去に植樹祭へ参加をしたことのある人は、育樹体験をしてきました。



今回の開会式では「OECM」の自然共生サイトの対象地として、2024年に神奈川県から環境省へ「湘南国際村めぐりの森」を申請する予定というお話がありました。

前回のSDGs通信でも取り上げましたが、みなさんは30by30(サーティ・バイ・サーティ)を覚えていますか？

主催者の非営利型一般社団法人 Silva(シルワ)(以下、Silva(シルワ))は環境省が推進している「30by30」プロジェクトのアライアンスメンバーに登録されており、湘南国際村めぐりの森が自然共生サイトへ登録されることを悲願として、地主である神奈川県と2021年から交渉を続けていました。

Silvaのみなさんの努力と、過去ボランティアで参加された方々の力が実った結果だと思えます。

来春には、国際的な生物多様性保全に貢献する場所になることが期待されます。

森の木々は、人間にとって必要不可欠です。今後も、森を誕生させるお手伝いができたらと思っています。そして、その為には多くの人の手助けが必要です。

※30by30とは「2030年までに陸と海のそれぞれ30%以上の面積を保全する」という世界的な目標です。

日本では2021年時点で陸地の20.5%・海域の13.3%が保護地として保全されています。

※ OECM(Other Effective area-based Conservation Measures)
国の保護地域以外の、民間・企業が管理する緑地や漁業管理地域等の生物多様性保全に資する地域。

※自然共生サイト

民間の取り組み等によって生物多様性の保全が図られている区域。

※環境省 30by30について

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/>

シルワホームページより

<https://www.silva.or.jp/>

開会式を終え、植樹チームと育樹チームにわかれて作業を開始しました。育樹をする場所は2カ所。私たちが初めて参加をした2022年11月6日の植樹祭(1,000本)の場所と、5月14日の植樹祭(3,100本)で植樹をした場所で、あわせて702㎡の広さがあるそうです。まずは、2022年11月6日に植樹をした場所へ移動をしました。

育樹は、『植樹をしてから2年～3年の期間中、苗木の生長を妨げる周辺の草を手折り、苗木の生長を手助けをする』作業です。また、草を根っこから引き抜くのではなく、道具は使用せず自らの手を使って、草の茎を折る『風の草刈り』という自然界へ配慮した特別な作業になります。草の茎は途中でポキッと折って、草の根はそのまま残しておくのだそうです。

Silva(シルワ)の植生復元は【そこにある命はすべて意味があり、活(生)かし共生する】というもので、周辺の草をすべて排除する訳ではなく、その場に生かしつつ苗木の生長を妨げないようにするというのが育樹の目的になると仰っていました。



植えた苗木を間違えて折らないよう、また自分達で踏まないように、気を付けながら丁寧に草の茎を手折っていきます。

風の草刈りを終えた後は、全体をマルチングの作業に移りました。1年前に植樹をした時は藁を使用しましたが、今回は枯草でマルチングです。Silvaの皆さんに用意をして頂いた枯草を、みんなで運び(植樹地はゆるい斜面になっているので)下から頂上に向かって土を覆うように枯草を置いていきます。



枯草に枝が含まれている場合は、藁のマルチングの時と同じく、枝を斜面に対して横に並べていきます。枝を縦に並べると、雨が降った時に水が斜面を流れていってしまい、土に染み込まないのだそうです。

天候が雨だったこともあり、土がぬかるんでいて足元を取られたり、枯草の枝が意外と重かったりと苦戦をしましたが、何往復かして枯草を運び終え、1カ所目の育樹作業が終わりました。



2カ所目の育樹場所は、5月の植樹地です。1カ所目より範囲が広く、傾斜もあります。こちらは藁のマルチングがほとんど残っていて、思ったほど草が生い茂っているようには見えませんでした。しかし、1カ所目の場所とは違い、藁が多く生えているのだそうです。



普通に立った状態で苗木を見下ろしていると、特に目立った草も蔦も見当たらないいなあ、と思っていましたが、体を近づけてよく見てみると、苗木の幹に蔦がぐるぐると長く巻き付いていました。

蔦は土に近い付近で手で切っていくと教わったのですが、蔦がとても強く、なかなか一度では簡単には切れません。

確かに、生長途中の苗木に蔦が強く巻き付いてしまったら、これ以上大きく生長できずに枯れてしまうんだと実感し、育樹(風の草刈り)をする大切さと意味を実感する事ができました。植樹作業とは違う大変さもありましたが、とても有意義な時間を過ごすことができました。

作業後に初めて植樹をした苗木の様子を、改めて見に行きました。

当初、30センチ程の大きさだった苗木が、腰丈くらいの高さに生長していて驚きました。来年、より生長した姿を見るのが、いまからとても楽しみです！



2022年11月6日



2023年5月14日



2023年11月12日

植樹と育樹の作業が同時進行だったこともあり、植樹チームの作業風景を伺うことができませんでした。全体で1,000本の苗木を植えて、多くてひとり20本程植えることができたそうです。
今回の植樹体験もとても楽しかったので、次回もまた参加してみたいと言ってくれたメンバーもいました。

植樹は体験してみると、とても楽しいです！みなさんもSDGs活動として、ぜひ植樹体験はいかがでしょう？

11月12日の様子を後日YouTubeにて公開予定です！
お時間のある時に、ぜひご覧ください。

次回の開催は、2024年春の5月12日(日)午前中を予定しています。
(2024年3月1日(金)より、Silva(シルワ)のホームページにて公募開始します)

【湘南国際村めぐりの森植樹祭】は年に2回開催されます。

このレポートを見て、ご興味を持たれた方、次回の参加を希望される方は

主催者：**非営利型一般社団法人 Silva (シルワ)** のホームページをご確認ください。

<https://www.silva.or.jp/>



**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**

【お問い合わせ】

株式会社サンケイアイ【SDGsプロジェクトチーム】

<https://www.sankei-eye.co.jp/contact/>

(当社HPよりアクセスをお願い致します)